

平和の旅のはじまり

那覇市立天久小学校四年 知念 慶

「戦後八十年」この言葉を、新聞やニュースで取り上げられているのを何度も目にした。ぼくは平和な島しか知らない。「平和って何だろう」それが、ぼくにとって平和をさがす旅だった。

一つ目の目的地は広島。人類史上初めての原子爆弾が落とされ、わくだけが残った原爆くドーム。資料館に入ると一九四五年八月六日八時十五分で時が止まった時計が目に入った。その時一体何があったんだろう。緑ゆたかな広島町。中央には青くかがやく川が流れていた。映像が急に空に上がったと思うと一つの大きな爆弾がばく発した。ばく風と火が波のように押しよせて、もくもくとけむりが上がる。けむりがなくなりやっと町が見えたが、その町は同じ場所とは思えないほど、黒こげの町だった。一しゅんで十七万人もの命と町をうばった。この地球上におそろしい爆弾があることをぼくは知った。その爆弾の中には人間の体に悪い、目に見えない毒のつぶがたくさん入っていた。そのつぶが、その後もずっと多くの人を病気にさせて、苦しめたと知り、悲しくなった。

二つ目の目的地は、長崎の平和祈念資料館。長崎も広島と同じように原子爆弾が落とされた地いきだった。『どうしたのか分からん。ただ、ぴかっと光っただけ。それで全めつだ。』人間はいい発明ばかりしてきたと思っていたが、一しゅんで大量に人の命をうばうための爆くだんまで発明していたなんて。ぼくはゆるせない気持ちになった。資料館の最後のエリアには世界の核保有数の展示があった。今戦争をしているロシアも、アメリカもおとなりの中国も北朝鮮もこの爆くだんをもっている。たった一発でこんなにめちゃくちゃになるのに、何千も持っていたら、地球の人々の命を全部うばってしまうにちがいないと思うとぼくはこわくなった。

最後の目的地は沖縄まぶに。平和祈念資料館へ行き沖縄戦について学ぶ。沖縄は唯

一、地上戦が行われた場所。アメリカ兵が銃を持ってガマをばく発させたり、日本兵が赤ちゃんを殺すように母親をにらみつけている姿があったりと、人間が人間の命をどんだんうばっていく。赤ちゃんや老人は弱いからいらないといわれているように感じた。その後、平和のいしじを回った。歩いても歩いても名前が続く。こんなに多くの命がうばわれて戦争をやってもいい事なんてない、とぼくは思った。その時ぼくは見つけた。英語で書かれた名前もあることを。祖母が、

「日本人だけじゃなくて、アメリカや韓国など外国の方の名前もきざまれているよ。」と教えてくれた。そうだ。どの命もみんな大切でみんな平等。弱くても、どの国に生まれても勝手にうばうことは絶対にゆるされない。

この旅でぼくが見つけたもの。「平和とはどの命も大切にできること」ぼくは、平和が続くようにこれからも平和の旅を続けたい。